

第5号

# いせ志業尋

景観サポーター情報誌

私達、伊勢崎市景観サポーターは、  
地元群馬の世界遺産登録(候補)地を  
見学に行ってきました！



## 富岡製糸場と 絹産業遺産群



藤岡市高山社跡



富岡市富岡製糸場



甘楽町小幡



# 初めての先進地視察in絹産業遺産群！

「景観」をテーマに、複数のまちを見て歩くのは初めてでした。養蚕技術について学べる高山社、世界遺産候補の核・富岡製糸場と周辺のまち並み、城下町の落ち着いた佇まいを残す小幡、どれも魅力的で多くの新しい発見がありました。その中で強く感じたのは、地域の「景観づくり」は、そこで暮らしている人の意識ひとつでいかようにもできるものだということです。

景観は、地域の人たちが普通に生活する中で、自然と出来上がってきたもの。いくら将来の予想図を描き、規制をかけても、最後に景観を決定づけるのは、地域の人々が建てた建物、育てた木々、そこを歩きかう人々です。昨年度の景観まちづくり講演会で川端五兵衛氏は、良い景観は地域住民のアイデンティティとして重要とお話ししていました。住民にとっては、生まれた時から親しんだ当たり前の景観ですが、これを生かすかどうかは住民次第で、上手にその景観の特徴を見出し生かすことができれば、それは何より住民にとって誇りとなり、そこに住まうことの魅力にもつながるのだと思いました。また、そうやって生活と密接に結びついた景観が、外部の人にとっても、大きな魅力となり得るのではないのでしょうか。



富岡製糸場正面

今回の視察先はどこも有名な文化財を核としてはいますが、文化財だけでなくまち全体として、古くから培われてきた地域の暮らし方がそのまま魅力ある景観となって現れていると感じました。特に、じっくりまち歩きをすることができた小幡が印象的でした。歴史まちづくり法の認定を受け、歴史的な景観の保全に積極的に取り組んでいる地域ですが、景観の保全となると「文化財に指定されていないけれど美しいもの・特徴的なもの」も含めて考えなければ

いけません。その中で例えば、石積みの残る武家屋敷では、庭の植栽がきれいに手入れされ、周辺の街路景観と見事にマッチしていたり、まちを流れる水路がきれいに保たれ、ときおり野菜を洗っているなど今も生活に密着している様子が見られたり、随所に地域の景観を守り育てようとしている人達の間を感じることができました。

良い景観を創るということは「必ずしも有名な文化財や観光資源が無くても、地域の人々がそこで培ってきた生活環境の中に特徴を見出すところから始まる。」よく言われることですが、改めてそのことに気付くことができました。

別の観点から地元・伊勢崎の魅力についてもう一度考えてみたいと感じた先進地視察でした。

(原澤)



小幡薬山園

# 田島弥平旧宅・高山社跡見学記

今年、政府は富岡製糸場と絹産業遺産群をユネスコの世界遺産に登録するため、推薦書の提出を決定しました。

伊勢崎市景観サポーターとして、国史跡に指定され、絹産業遺産群を構成する田島弥平旧宅と高山社跡の見学した印象を以下に記します。田島弥平と高山長五郎は、江戸時代末期に生まれ、明治時代に、養蚕技術の開発実践者、その成果を普及する指導者、更にはそれを事業化する経営者として活躍した先覚者です。田島弥平は科学的な「清涼育」を考案し、「島村勸業会社」を設立し蚕種の製造・販売を行いました。高山長五郎は、田島弥平より8才若く、田島弥平宅で研修し、「清涼育」と「温暖育」の長所を取り入れ、「清温育」を考案し、我が国最初の蚕業学校・高山社を設立し、全国に普及しました。



高山社跡

田島弥平旧宅

写真右が田島弥平旧宅です。木造二階建て切り妻総檜（そうやぐら）方式で文久3（1863）年（田島弥平41才時）の建築です。庭先のソテツの大樹が風格を添えています。

写真左が、高山社跡です。こちらも木造二階建て三檜方式ですが、明治24（1891）年の建築で、各檜の下に部屋を配置し、通気を良くする煙突の役割をさせるよう改良されています。

両方とも、蚕室兼住宅であり、現在まで代々の当主がそこで生活し、苦心して保存されてきた事を思うと、当主の心意気も偲ばれます。高山社跡周辺は養蚕規模拡大が困難な中山間地の様相を帯びていましたが、高山社は各地に分校を次々に開設して発展したと聞いて、事業の発想転換も大変素晴らしいと感じました。

この両遺産は、生活の場、養蚕研究の場、人材が交流・触発する場でもあり、見学して色々感慨深い思いがしました。「島村勸業会社」も「高山社」も、現代の会社や学校という近代的な社会組織の原型でもあり、群馬県人の先進性や協力精神の豊かさ等と共に、群馬県が絹産業を牽引する人材を多数輩出した事に感心しました。

（重田）

# 先進地視察・雑感



高山社の蚕室風景

先進都市視察で藤岡の「高山社跡」を初めて訪れました。明治から昭和初期にかけて実習を行う分教場として利用された母屋兼蚕室の急な階段を登って二階に出ると、養蚕農家だった我が実家の二階と同じようで懐かしく感じました。保存してあった“まぶし”等の養蚕道具を見た時、5月から10月までの半年間、生活空間の半分近くが蚕室へ転換する養蚕ありきの生活が思い出されました。

その養蚕のおかげで、家族12人が生活し、兄弟6人全員高校に進学そして卒業できたのです。しかも6人目の私のみですが、大学まで進学させてもらったのです。当時、大学進学を当然だと思い込んでいましたが、今思うと月1万の仕送りは養蚕農家にとってまことに高負担であったに違いありません。養蚕による安定収入をも

たらした事は、島村蚕種、高山社、富岡製糸場等の先人による技術・文化の賜物に違いありません。

さて、今回の視察で最も注目した点は、富岡製糸場に関連する周辺の景観でした。黒でまとめた洋品店の落ち着いた外観、観光案内所、お休み処、いくつかの土産店、食べ物屋が立ち並び、多くの人達が往来する様子はなんとなく観光地の雰囲気を出していました。

広い駐車場も何箇所か整備され、大型観光バスが何台も駐車し、関東近県（埼玉、東京、神奈川、栃木、茨城）の乗用車も多く見られました。

製糸場内の見学者も以前は中高年が多かったのですが、今回驚かされたのは20代と思われる多くの若い男女の姿で客層の広がりを感じました。

昼食は鮮魚店が営む料理店で済ませました。

白漆喰の蔵を改装した趣（おもむき）のある部屋でした。少し残念だったことは団体客の接待に慣れていない為か、皆の料理が出揃うまでに時間がかかり団体行動への支障となりました。数か月経てばもっとスムーズになるのでしょうか。

ただ「高い、まずい」という観光地に比べればボリューム、味、工夫等良かったと思います。昼食後、鐺川方面へ歩いていく途中、住宅街にある普通の店から若い人達のグループが出てきました。「従来ある店でも予約を取って観光客に対応しているのだろう」と感心しました。

視察の翌日（県民の日）に上信電鉄に乗って下仁田町へ行きました。下仁田駅のホームになんと「富岡製糸場」があったのです。電車側面にレンガ造りの建物が描かれていたのです。高崎駅から下仁田駅間を何往復かして、乗客はもちろん、沿線の住民にアピールしているのでしょうか。群馬県や富岡市はもちろん、上信電鉄も世界遺産をバックアップしている感じが感じられました。

（羽尾）



富岡土産店の風景

# 歩きたくなるまち『小幡』



昆明池

景観サポーター活動の一環として「先進都市視察」に参加しました。今回は富岡製糸場と高山社跡の世界遺産関連資産の視察と「歩きたくなるまち『小幡』」のまち歩きでした。世界遺産関連資産の視察については他の景観サポーターの報告に委ねることとして、ここでは『小幡』のまち歩きについて報告します。

歴史に疎い(うとい)私は数年前にゴルフ場(小幡郷ゴルフ倶楽部)に来た時に『小幡』と云う地名を知った程度です。今回の視察前に事前調査をしたつもりでしたが、その対象は世界遺産関連中心になってしまい、『小幡』については何の予備知識もなく訪れました。最初の印象は「群馬県にこんなにも美しく整備された城下町が再現されている」と云うことでした。

先ず訪れたのは「国指定名勝 楽山園」で、見事に整備された日本庭園がありました。観光案内人柳澤さんによるとこの場所は民間人の所有になって荒れ果てていたのを当時の町長の発案で町が所有権を得て約10年かけて整備した結果、今の「楽山園」になったとの説明でした。「町長の熱意がこの庭園を復活させた」と云う柳澤さんの話に感銘を受け、地域の景観を整備・維持するのは自治体の首長の熱意が必要だと云うことを痛感しました。11月中旬には紅葉が見頃になることですので、その頃再訪したいと思います。

次は「長岡今朝吉記念ギャラリー」です。当地出身の実業家(長岡不動産(株)社長)である氏の寄贈により創設された美術館で洋画・日本画の著名な日本人画家の作品が展示されており絵画ファンには魅力あるものと思われます。

ここから御殿前通り→中小路→歴史民俗博物館→雄川堰→養蚕農家群をバスと徒歩で散策しました。統一感のある景観維持、また改築中の建造物(信州屋)の景観維持に町を挙げて努力している様子を目の当たりにして感心しました。甘楽町立第二中学校には歴史観のある塀と体育館があり周囲の景観に大変良くマッチしていました。余談になりますが、この学校の生徒たちが通りすがりの我々に大きな声で挨拶をしてくれる微笑ましい光景にも感動し、この町が官民協働で観光客の誘致に力を入れていることを認識しました。



長岡今朝吉記念ギャラリー



第二中学校



小幡桜並木

ただひとつ難を云えば、新築あるいは改築された新しい部分にウエザリングの手法を施せば周囲の古い建造物との一体感がさらに増すものと思いました。世界遺産候補の関連資産を抱えることになった伊勢崎市も是非見習うべき姿を視察することができ有意義な一日でした。

(加治屋)

※ウエザリング: 風雨にさらされた実物の外観を模した「汚れ」

「風化」などの表現を加える技法

# 富岡製糸場 憧憬



城山通りからの直線的なアプローチは、突き当たりにある建築物に遠近感と広がりをもたらし、歩を進めるごとに高揚感が増してゆく。

東繭倉庫が整然と佇む。フランス積みのレンガの繊細さと赤茶色のぬくもり、アーチ型のフランス窓がとても優しい。

窓上部にある棧(さん)のデザインは、天に向かい放射状に大きく広がりを持つ。私には工女たちの向上していく精神を表しているかのように思えた。

規則正しく並ぶオフホワイトの小窓が小気味よいリズムを作り、丁番のくすんだ色が日本家屋独特の屋根瓦とじっくり馴染んでいる。

中央に位置するアーチ型ゲートは来訪者を暖かく迎えてくれる。工場独特の無機質さはなく、手工芸的なテイストがそこそこに散りばめられている。

操糸場内はトラス工法を採用することにより、とても開放的で使い勝手が良さそうだ。高窓からの採光が光を回し、まるでテラスのよう。

興味深かったのは、全体に落ち着いた色調の中で、機械と天井付近にアクセントカラーのように使われているアイレストグリーン(彩度の低い青緑)である。アイレストグリーンとは、その名の通り目に優しい緑色であり、1950年代にアメリカから入ってきたカラーコンディショニング(色彩調節)という考えに端を発した色である。

1960年頃まで工場や病院などのインテリア計画に多用された色であり、今でも工場などの機械や作業服などで見ることが出来る。

細かい機械作業を強いられる工女たちの目の疲労軽減に一役買っていたのだろうか。

また敷地内に病院や教育施設などの福利厚生施設が完備していたのには驚いた。現代の企業であってもここまでの配慮はなかなかできないのが現状だと思う。

未公開ゾーンの検査人館2階には、古い洋画のワンシーンを彷彿させるような猫足のバスタブ付き浴室や、大理石のマントルピースのある貴賓室がある。全体を見学できる日が待ち遠しい。

パンフレットにある、工女「横田 英(えい)」の凜とした表情が印象的である。技術を身につけ、地域に貢献しようという高い志とプライドを持って毎日を送っていたのではないか。

富岡製糸場は「用と美」を兼ね備えた建築物であり、文化、歴史、高い精神性を含んだ建築物である。



最後に、世界産業遺産登録が叶うことを願う。

(斉藤)

# 島村地区養蚕農家群の魅力 田島弥平旧宅世界遺産登録への課題

「田島弥平旧宅」は、世界遺産への登録推薦が決定した「富岡製糸場と絹産業遺産群」の4遺産のひとつです。この「田島弥平旧宅」は、近代養蚕農家群の景観を残している伊勢崎市島村地区にあります。私たち景観サポーターは、2度ほどこの島村地区を歩いております。今年は9月15日、この地区の景観マップを作成するという目的で歩きました。

利根川に近い「島村蚕のふるさ公園」からスタートし南に下り、ほどなく「田島翁養蚕興業碑」が目に入ります。位置的には「田島弥平旧宅」を北側から見ることになります。この北側のルートから島村地区を歩くのが一般的です。歩くと養蚕農家は「田島弥平旧宅」のみでなく、数多く点在していることがわかります。

この地区の養蚕農家の特徴として、屋根の上に、もう一つの屋根が付いていることです。檜(やぐら)と呼ばれるこの二重の屋根こそが、明治初期の養蚕や蚕種製造を画期的に発展させた喚気の仕組みだそうです。この檜を付けた大きな養蚕農家が現在も数多く残っていることが、養蚕県群馬の景観を残している島村地区の特徴であり魅力です。

世界遺産登録の対象は、養蚕農家群の一軒、「田島弥平旧宅」です。敷地内を見学させていただいたのですが、約4,009㎡の邸内には現存する総檜が特徴の主屋の他、蚕種を保存する種蔵や蚕室があったそうです。この旧宅が近代養蚕農家の原型としての価値が認められ世界遺産登録の対象となりました。

11月11日、県庁で開催された「世界遺産登録へ！産業遺産の魅力」という国際シンポジウムを聞いてきました。富岡製糸場は、10月は4万人の入場者があったそうです。私は今年3回、富岡製糸場に行っていますが、回を重ねるほど来場者が増えて印象です。富岡の街なかも活気が出てきています。地域振興の核になる施設として富岡市も大いにPRしていこうという意気込みを感じます。

さて、「田島弥平旧宅」は、世界遺産登録候補の一つですが個人住宅です。この地区の養蚕農家群も多くが個人住宅です。そのために見学等が制約されるのは当然です。同じ世界遺産候補でも、富岡製糸場とはまったく違う環境にあると認識する必要があります。

「世界遺産登録イコール観光地に」との発想があります。私は「田島弥平旧宅」及び島村地区養蚕農家群はその発想になじまないと思います。ではどのような方策で、その価値と魅力を多くの人たちに知っていただくのが今後の私たち市民も含めた伊勢崎市の課題ではないでし

ょうか。(角



桑園越しの田島弥平旧宅



田島弥平旧宅東からの風

田)

# 養蚕と信仰

実家で養蚕をしていた15年程前、良く父母が「おこ様」と蚕に「御」と「様」を付けて呼んでいました。

毎年5月2日の八十八夜には伊勢崎市柴町の泉龍寺境内裏手にある稲倉神社(いなふくみ)にお参りに行くことを欠かしませんでした。これから始まる春蚕(はるご)、夏蚕(なつご)、秋蚕(あきご)と年3~4回ほど蚕を掃き立てる為、今年一年の収穫を祈願するのです。



高山社跡の神棚

養蚕はとても神経を使います。蚕室の消毒から始まり、昼夜を問わず餌(桑の葉)やり、温度管理(清温育)とまさに人の子を育てる事に匹敵するほどの大きさで、生まれたての赤ん坊の世話をするようです。

それほど気遣って育てるおこ様なので否が応でも神頼みせずにはいられないのでしょう。今回の高山社跡でも神棚の札宮、屋敷神、五輪塔などが往時を忍ばせていました。



高山社跡の屋敷

神棚には毎朝、神とお水を備え礼拝を欠かさず氏神様を祀る。日ごろの神の加護に感謝しこれからの安全と繁栄、幸福を祈願。また、戌亥(いぬい)の方位には屋敷神が祀られ五穀豊穰、商売繁盛を日々祈ったのでしょう。庭先にひっそりと佇(たたず)む五輪塔は自然やあらゆる神々、祖先への畏敬(いけい)の念(尊敬や恐れ)のあらわれとみることができます。科学も情報も発達していなかった百数十年前、養蚕の先駆者達は挑戦を続け頂点をつかんだのでしょう。



高山社跡の五輪

今、世界遺産登録へ向け富岡製糸場を始め、我がまちの「田島弥平旧宅」の先人達も常に神や自然と寄り添いながら一步一步思考を積み重ねたことでしょう。(佐藤よ)

※戌亥:北西の方位。乾とも書く。

※穀霊神:穀物(五穀=米・麦・粟(あわ)・黍(きび)・豆)の中に宿る神霊の意。

※屋敷神:一般的に伏見稲荷を祀る。

※五輪塔:地・水・火・風・空の五大を方形・円形・三角形・半月形・宝珠形に石などでかたどり、大日如来(真言密教の教主。大日とは「偉大な輝くもの」、後に宇宙の根本の仏の意)を指す。



と佇む機織りの神

景観サポーター情報誌「いせさき美尋」とは?

美尋の「美」→多方面から考察した美しいもの。「尋」→素晴らしい景観を尋ね求める。対象物の本質の探究。景観サポーターは、伊勢崎の自然、歴史、地域文化、先進性等景観の大切さ・素晴らしさ・美しさを多方面から尋ね(美尋)、景観の価値を学び・発見すべく研鑽を重ね、その発表の場を「いせさき美尋」と名付けました。

発行/いせさき景観サポーター編集部

『いせさき美尋』景観サポーター情報誌第5号

平成24年12月13日発行 連絡先/090-1252-2509(佐藤)